

スクールのホッとライン

「限界突破」FULLL MAXs

from 豊山中学校

今年度の生徒会スロージャンである「限界突破」FULLL MAXsを合い言葉に、学校では、三学期に入っても様々な行事が実施され、健やかな心身の成長を図っています。

〈一年生〉

今年度は、豊山町と友好交流している長野県阿智村にある「ヘブンスそのはらスキー場」において、二月二十四日（火）から三日間、スキー研修が実施されました。事前の説明会では、保護者の方にも「理解とご支援、ご協力をお願いし、生徒もとても心待ちにしています。スキー研修を通して、



(1年生スキー説明会)

楽しい中にも規律ある集団行動がとれるように、また、生徒の自主性や責任感を高めていくことを学びました。

〈二年生〉

一月二十八日（水）に、二年生全員を対象に、命の大切さと人命救助の具体的な方法を学ぶために、救命講習が開かれました。西春日井広域消防署から九名の方を講師としてお招きして実施されました。どの講師の先生方も、とても真摯な態度

で実技指導をしていただきました。その真剣な姿を見て、生徒のみなさんも、命の大切さについて今一度考えを確かめ、また深めるともよい機会になりました。



(2年生救命講習)

〈三年生〉

今年度は三月五日（木）に、第六十八回の卒業証書授与式が挙行されます。本校の伝統にもなっている卒業生全員による「大地讃頌の合唱を、三年間の思いがこもったものにするため、音楽の授業の時間は言うまでもなく、



(3年生合唱練習)

学年や学級の時間に「限界突破」FULLL MAXsで真剣に練習に取り組んでいます。

思い出がつまった学舎を後に、大きく成長した三年生のみなさんの勇姿を期待しています。

第七十六話

戦災の火事

戦争中は、豊山の集落の中でも多くの方がアメリカ軍の戦闘機に狙われた経験があります。今回は母子で家の留守を守っていた方のお話をお伝えします。

昭和二十年八月一日、十一時頃米軍の艦載機がやってきました。母が機織りをしていたら、空襲になったので大事なものを持って、母屋の庭先の防空壕へ避難しました。なにかしら、いつもと違って身近に危険を感じたので、無事を祈りながら解除を待っていました。

空襲が止み艦載機が遠ざかったので、壕を出て辺りを見ると、家の二階屋根から煙が出ていました。びっくりして西へ走り、東へ走り「助けてちょう、助けてちょう」と叫んでまわりました。運の悪いことに、その日は隣家で葬式があり、みんなが野辺の送りに出たので留守の家ばかりでした。その中でも近所の方が三人駆けつけてくださり、また、裏の方に駐屯中の兵隊さんたちも来て、家財を運び出すのを手伝ったり、消火にあたってくださいました。家は大屋根部分だ



けが焼けてしまったので、あの夜は星空を眺めながら寝た記憶があります。あとでわかったことですが、新田の人が裏の道を通りかかり、空襲になったのであわてて木陰に隠れたところを艦載機に狙われ、その流れ弾が私の家と隣家の鈴木さんの納屋にあたり、戦災に遭ったということでした。

いまだに世界各地で起こっている戦闘は、母子だろうと女子だろうと容赦しません。悲惨な戦争体験が風化しようとしている今日、今一度世界の平和と日本の戦争を考えたいものです。

今昔の物語です。
（豊山町文化財研究会の郷土文集を参考にしました）

